

「日本の経済事情とこれからのゴールドコースト市場」 講演会報告書

日時：2014年10月22日10時より

会場：Arundel Hills Country Club

講師：クィーンズランド州政府駐日代表 安達健氏

クィーンズランド州政府駐日代表の安達健氏をお迎えして「日本の経済事情とこれからのゴールドコースト市場」について、解説していただきました。日本を離れていると見えてこない事情は、大変興味深い内容でした。



講演の前半は、日本の経済状況についてでした。

これまで、日本が自由貿易協定（FTA）を結んだ国と農作物の例（日本とチリ間の FTA によりチリ産ワインの売上高がフランスワインの売上高を上回った話など）を挙げながら、今後の日豪間の FTA 締結により、オーストラリアからの農産物、とくに牛肉の市場での競争力が高まることが予想されます。

また、昨今の経済成長が中央にのみ偏っているとして、地方創生担当大臣に石破茂氏を起用するなど、地方再生に力を入れるという点と、女性をもっと経済成長に貢献させる、起用するという二点が、日本では注目されているということです。

この他には、日本は、観光立国になったという事実をお話いただきました。これは、日本から外国への旅行者の数よりも、外国から日本への旅行者の数が上回ったという統計上の数字が裏付けています。（最近では、群馬県の水上市が、ニュージーランド人観光客によりフロンティアな場所として注目を浴びているそうです）外国からの観光客 7 人の日本での消費額と、日本人一人当たりの消費額が一年間で同額だということですから、今や観光は日本の経済の貴重な財源になっているということも頷けます。

更に、これまでも迅速さや正確さに定評のある、日本の宅急便、道路事情の更なる発達により、ますます高度なサービスが期待できるということです。

近頃の日本は、「スーパーグローバル化」をめざし、英語教育に一層目が向けられるようになってきているとのことです。これまで「国内向け」という印象の「英語検定-英検」がイメージを変え、日本の高校生がオーストラリアの高校留学に必要な英語力基準となるように、オーストラリア政府と協定を結んだということです。この先駆けとなったのがクィーンズランド州政府だと安達氏はおっしゃっていました。中高生を中心に年間約 230 万人が受験する英検ですから、これはオーストラリアへの留学ブームになることが期待されます。日本の高校生が、オーストラリアの公立高校に留学する場合、英検準 2 級に合格していればオーストラリアの 10 年生のクラスに入れるということです。

後半では、ゴールドコースト市場について、お話いただくとともに、出席者に問題提示がされ、講演会終了後のディスカッションとなりました。

ゴールドコーストという場所は、オーストラリアでも、最もブランド力の高い場所として日本では認識されているのではないかとことです。青い空、快適な気候、たった1時間の時差、そして何よりも安全だと考えられています。こう考えると、日本からの留学生にとってゴールドコーストは、魅力的な留学先になるのかもしれませんが。

また、日本の相続税法が近々、更に厳しいものになるということにより、富裕層の移住先としてのゴールドコーストを、アピールしていけるのではないかとことでした。

最後に、観光地として、ハワイとゴールドコーストを比較することにより、今後、ゴールドコーストに日本人観光客にもっと来ていただけるよう、考慮しなければならない課題をいくつか講演会出席者と安達氏で話し合いました。結局は、もう少し、日本からのアクセスが増えること（日本航空がブリスベンに再就航するなど）がポイントにはなりますが、このほか、ジェットスターを代表とするLCC（格安航空会社）の普及により、日本の旅行会社が、ゴールドコーストへの旅行を売っても儲けがあまり得られない状況にあるなどの点が挙げられました。

最後には、交流会を開き、楽しいひと時を過ごしました。

安達代表のお話を、もっとたくさんのゴールドコースト在住の日本の皆さんにお聞かせしたかったです。

報告：事務局（ブリース）

